「被災地学校修学旅行支援事業」報告

宮城県石巻好文館高等学校
教諭　　辻　　昌宏

愛媛県の皆様の「えひめ愛顔の助け合い基金」による「被災地学校修学旅行支援事業」でのご支援により，考えてもいなかった愛媛県への修学旅行に招待していただき，ありがとうございます。また，県民の皆様，松山東高校の生徒の皆様に暖かく迎えていただき，心に残る旅行とさせていただいたことに対して，感謝の念を込めて報告させていただきます。当時を思い起こすと前置きが長くなって申し訳ないのですが，以下に修学旅行までの経緯と，当時の修学旅行に参加した生徒の報告を紹介させていただきます。

１．３月１１日の東日本大震災から学校再開まで

平成２３年３月１１日の地震発生時，その日は午前授業だったこともあり，生徒は校庭・体育館などで部活動に参加している者が多数いました。１４時４６分の地震の揺れが収まってから，校内の生徒を一旦は校庭に避難させたものの，地域の有線放送によるサイレンとともに「大津波警報」が発令され，地域住民とともに再度校舎に避難。海から２㎞ほどの距離にある本校へも，地震発生から１時間を過ぎる頃から津波がじわじわと押し寄せてきました。小雪の降る中，１７時３０分頃には水かさは１ｍを越え，さらにその１時間ほど後には，かろうじて繋がっていた携帯電話のメールも使えなくなり，外部との連絡が取れない状態で孤立しました。

水かさが減り，外部と行き来できるようになったのが３日後の月曜日。北陸電力の支援で校内に電気が灯ったのは翌火曜日の夜。学校は屋上のタンクに水をあげるポンプが壊れたため，水道が復旧するまでには，その後ずいぶん日を要しましたが，震災から１週間で，ほとんどの生徒を保護者に引き渡すことができました。

震災当日多くの生徒が部活動中で学校内にいたことにより，これらの生徒に人的被害はなかったものの，帰宅途上にあった生徒１名が津波被害にあってしまいました。また，生徒の約半数が津波によって自宅が半壊・全壊の被害を受け，また，両親・兄弟・祖父母が被害にあった生徒も少なくありませんでした。

先日，本校を巣立っていった卒業生は，震災の前々日の高校入試で本校に合格し，震災後に入学した生徒達ですが，卒業生代表答辞の一節に「入学式は４月２２日，学校が実際に始まったのは連休明けの５月９日でした。当時は放送設備も壊れていて，チャイムもなく……」とありました。実際，校舎１階の清掃，グランドの汚泥の片付け，上水道（貯水タンク）の復旧などが完了したのが４月２０日頃で，ようやくトイレが使用できるようになって生徒が登校できる準備が整ったのがその頃だったわけです。

２．平成２２年度入学生の修学旅行まで

震災当時１年生だった平成２２年度入学生には，生徒自身の人的被害はなかったものの，家族を亡くした生徒や，自宅を流失した生徒は少なくありませんでした。学校が再開してから検討した学校行事のうちの一つに，修学旅行の実施がありました。①予定通りの「関西修学旅行」を実施するのは金銭的にも心情的にも不可能である，②しかしながら，単に取りやめとすることは，生徒の高校での大切な行事

の一つを失うことになり忍びない，③方面・期間を再検討し，震災から１年を経過した後を目処に修学旅行を実施し，生徒の高校生活の思い出に残るものにしたい，という方向付けをしました。

そんな折，愛媛県からの支援の提案をいただき，それに甘えさせていただくことを決定した次第でした。

３．生徒の，修学旅行先から学校にあてた「修学旅行日誌」の抜粋

①修学旅行委員Ａ君による日誌

【１日目活動報告】＝2012 年 3 月 15 日(木)

学校→仙台駅→（新幹線）→東京駅→羽田空港→（飛行機）→松山空港→愛媛県庁訪問

早朝バスで仙台駅を目指し、新幹線に乗り換え、東京駅に到着。新幹線の到着が三分遅れたが、東京駅からバスの駐車場までスムーズな移動もあり、時間通りに羽田空港へ向かうことが出来た。首都高速から見る東京の街並みは壮観で摩天楼の群れに思わず尻込みした。スカイツリーも見え、大変天気も良かったため、その奥にうっすらと富士山も見えた。飛行機では離陸の時、体にかかる重力に思わず声が出た。特に女子生徒の叫びにも近い歓声が耳に残った。

松山空港では県民の熱烈な歓迎を受け、改めて愛媛県の皆様の支援に感謝した。県庁に向かい、歓迎セレモニー、みかんの講話もいただいた。

初日は事故もなく、病人もなく終えることが出来た。ただ、疲れも多く残っているので、明日からの活動に注意したい。

②修学旅行委員Ｂさんによる日誌

【２日目活動報告】＝2012 年 3 月 16 日(金)

日本食研（宮殿見学コース）・タオル美術館 ICHIRO（見学）→

→松山東高→（松山東高の生徒に案内してもらい自主研修）→愛媛県庁

修学旅行 2 日目の今日は、午前中にタオル美術館と日本食研を見学しました。タオル美術館では、糸からタオルが出来るまでの工程を、実際に機械が動いている状態で見学できました。また、ちょうどムーミン展が開催されていて、大きなムーミンがタオルで出来ていてびっくりしました。

日本食研では、ウィーンの宮殿をモチーフにした工場を見学しました。厳重な衛生管理のもと、様々な工夫がされた商品が生産されていました。

午後には松山東高校と交流し、応援団の気合い入れや一年生の大合唱の歓迎を受けました。自主研修で

は松山東高校の生徒との絆を深め、あっという間に時間が過ぎてしまいました。私の班ではお互いの方言のクイズを出し合ったりしました。
　今日は一日中愛媛にいることができ、それぞれが思い出に残る一日になりました。
２日目は雨が心配されましたが、研修終了までひどくなることなく、なんとか天気はもちました。

４．修学旅行その後

年度末の３月１５日(木)～１７日(土)というタイトな日程の中での修学旅行で，石巻に戻ったあとは，他の行事と終業式が続いてしまったために，生徒からの感想は旅行中に生徒から聞いたものだけになってしまいましたが，愛媛の皆さんの暖かいご厚意に触れ，大変思い出深いものになったようです。タオル美術館で買った「バリィさん」の大きなぬいぐるみを抱いて幸せそうに新幹線の車中で眠っている女子生徒もいました。生徒は，例年の「京都・大阪修学旅行」とは違った，密度の濃い３日間を体験させてもらったと思います。今年度末でこの事業が終了するということですが，生徒たちは皆さんにから受けたご厚情は生涯忘れないことと思います。

最後に，昨年春の卒業生からのメッセージで報告を締めくくらせていただきます。

③卒業生Ｃさんから寄せられたメッセージ

　震災後の大変な状況のなか、修学旅行に行くことは無理だと思っていたので、大好きな仲間達と思い出作りができたこと、愛媛県のみなさんにはとても感謝しています。
　修学旅行のあいだは終始、愛媛県のみなさんの人の暖かさを感じられ、友人達と楽しい時間を過ごせて、記憶に残る修学旅行になりました。
　温泉はもちろん、食べ物も方言も、行かなければ知ることのできない愛媛県の良さをたくさん知ることができ、機会があるならまた行ってみたいです。